

標準作型

○印・播種(種まき)

□印・収穫

作 型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
春まき			○	○	□							
夏まき	□	□					○	○		□	□	□

**栽培のポイント**

夏まき栽培が作りやすいが、早まきしすぎると病害が多く、遅まきして乾燥期に播種すると、発芽不良が生じやすい。夏まきでは、雨後など土壌がしっかり濡れているときか、播種前にたっぷりかん水して播種する（確実に発芽させることが大切）。

近年は秋の気温が高いことが多く、越冬どりの作型では肥大しすぎたり、割れやすいので、播種日を工夫する必要がある。

品 種

向陽2号(タキイ)春どり、秋どり用の標準的な品種で、作りやすい。  
陽州5寸(タキイ)秋どり、越冬どり用の中生品種。向陽2号より肥料を控える。  
ひとみ5寸(カネコ)秋どり用品種。ジュースにして臭みなく美味しい。多肥は避ける。  
らいむ5寸(横浜植木)年明けどりに適した中生品種で、色つや良く凍霜害に強い。

畑の準備

苦土石灰(10kg/a)、堆肥(100kg/a)は土になじむよう、種まきの少なくとも半月以上前に畑全体に施して、根が伸びやすいように深く耕す(40㌘以上)。

元 肥

播種の1週間くらい前に畑全体に施して軽く土と混和しておく。

(1a 当たり使用量)

ジアン有機化成S806号	12 kg	播種1週間前
ようりん	4 kg	

播 種  
(種まき)

ニンジンの種子は、畑に適当な水分のある時に播種する(雨の後などの畑が十分に湿っているときに種まきしたほうが良い)。

条間15㌘のすじまきにする。播種量の目安:60~120ml/a

覆 土

ニンジンの種子は発芽するときに“光”を必要とするので、覆土は適湿な土壌で5㌘、乾燥しやすい土壌で1㌘とする。

また、乾燥すると発芽が悪くなるので、籾殻などで土が見えなくなる程度かけて乾燥を防ぐ。

間引き

4~5葉期、播種後35~40日に1回間引きをし、株間6~10㌘とする。

通路は55~65㌘が目安となる。

除 草

ニンジン初期生育が遅く雑草に負けてしまうので、入念に除草する。

追 肥

間引き後は通路に化成肥料をまいて軽く耕し、ニンジンの生長点が埋まらない程度に土寄せをする。

ニンジンを越冬させるときは12月中旬ごろ、防寒のために、根の肩部に土を5㌘以上盛る。

(1a 当たり使用量)

NK化成2号	4 kg	間引き後
--------	------	------

病虫害防除

害虫はキアゲハなどが発生する。ほ場規模が小さいときは捕殺などで防除する。ネコブセンチュウやネグサレセンチュウの被害を受けやすいので、できる限り被害の出る畑では栽培を避けるか、粒剤を播種前に散布する。

収 穫

根が肥大したのから順次収穫する。